

春季彼岸会勤まる

三月二十二日に春彼岸会が勤まりました。講師は倉橋町信順寺住職の日野志道師が務められました。以下、法話の抄録です。

すべての者を救う仏法の不思議
親鸞聖人の和讃である。

いつの不思議をとくな
仏法不思議にしくぞなき
仏法不思議ということは
弥陀の弘誓になづけたり

仏法不思議とは、阿弥陀仏の弘誓（ぐぜい）によって、いかなる罪深き者でも救われるという事である。世に様々な人智の及ばぬ不思議があるが、これほどの不思議は無いと聖人は言われた。私たちの人生は生死（じょうじ）する人生と言われる。仏教では生死とは生き死にということではなく、迷いの人生という意味である。『正信偈』に「証知生死即涅槃」とある。ように阿弥陀仏の弘誓によつて悩み多く、迷いの深い人生のままで浄土に往生ができるのだ。それが実現するのもすべて阿弥陀仏の弘誓、つまり他力（仏のはたらき）に他ならない。





講師：日野志道 師

●自らの罪業に怯える人々

今から五百数十年前、蓮如上人の時代に感染症が流行したようである。当時の人々は疫病で死ぬと、それを非業の死と捉え、自らの罪業により地獄に落ちると恐れていた。民衆は自らの罪業に怯えていたのである。

罪業とは、仏教の五戒を守れぬことである。五戒とは①不殺生戒（他のいのちを奪わない）、②不盜賊戒（財物を盗まない）、③不邪淫戒（邪まな性交辯不妄語戒（嘘をつかない）、⑤不飲酒（酒を飲まない）である。

不殺生戒について例えれば、鯨を漁師が銛で刺して殺すのを見ると「かわいそう」と思うが、加工された鯨肉を見れば「おいしそう」と思う。殺生において直接手を下していくなくても仏教では殺す者も食べる者も同罪である。

不妄語戒についても、痛飲し二日酔いの朝、妻に「大丈夫?」と問われても「大丈夫」と嘘をつく。なぜなら「辛い」と答えれば、「そんなに飲むからだ」と叱られるから嘘をつくのである。さて、五戒を守れる人がどれ程いるだろうか。仏教では五戒を守れる者を善人とし、守れぬ者を悪人とする。つまり人は皆、救われ難い悪人なの



●私が人生でなすべきこと

私たちには生まれてきた以上、念仏を申す縁をいただいている。

最近ある実在のジャズシンガーを描いた映画を見た。曲の始まりに「ワン・ツー・スリー」と演奏家に曲のテンポを示す合図を入れるが、そのシンガーは「Y o u k n o w w h a t t o d o (アンタ、自分のやるべきことは分かつてるとね)」と粋な合図を入れる。親鸞聖人も「なすべきことは分かつているだろう」と私に念佛申すことを促しておられるように思われるのだ。

● 罪深き者を「こそ救つ念仏の教え
蓮如上人は『疫癘(えきれい)の御文』
にこう説かれた。

お寺のハナ?『納骨』



前号では真宗本廟収骨についてお知らせしました。今回は大谷祖廟の納骨についてお知らせします。

●大谷祖廟の納骨

大谷祖廟とは親鸞聖人の墓所です。親鸞聖人が亡くなられ十年後に建立されました。東本願寺の飛び地境内である大谷祖廟は親鸞聖人をはじめ、本願寺の歴代、全国各地の寺院・ご門徒の方々のご遺骨が納められています。

大谷祖廟に納骨される際には、事前の申し込みの必要はありません。いつもでも納骨に行くことができます。また、大谷派のご門徒でなくして、誰でも納骨ができます。(諸確認事項があります。詳しくは大谷祖廟事務所までお問い合わせください。)持ち物については、「[]」「[]」「※納骨申込書」「懇志金」をお持ちください。

※納骨申込書はホームページから印刷できますが、納骨当日、大谷祖廟で記入することができます。

服装は、華美な服装はさけましょう。お念珠・肩衣をお持ちの方はご持参ください。事前の手続きは必要ありませんが、大谷祖廟の納骨に行かれる場合には、お手次寺に一報入れてから行かれるとよいでしょう。

法座・講座等のお知らせ

7月6日(火)非核非戦法会兼原爆死没者追弔会

【講 師】寺川大雅 先生(庄原市 西願寺住職)

【日 程】14:00~勤行と法話 16:30 終了予定

<仏教の視点から戦争の問題について語られます。

お誘いあわせのうえ、ご参詣ください。>



7月3日(土)真宗基礎講座

-親鸞の生き方にたずねて-
(第3シーズン)

【講 師】三明智彰 先生(九州大谷短期大学学長)

【日 程】毎回 13:30~16:00 【会 費】500円

【次 回】2021/8/21(土)

<親鸞聖人のご生涯をたずね、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ講座です。>



毎月5日 定例法話(ご令日の集い)

【講 師】県内僧侶(月替わり)【日 程】14:00~勤行と法話(15:00 終了予定)

<広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。>

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウィルス感染拡大防止にご協力ください。

道場樹 【編集室より】

先日、叔父の葬儀が東京で営まれた。火葬場の予約が取れず、死後八日経つて火葬場が極端に少ない東京では、火葬待ち一週間は普通だとか。ならば火葬場を増やせばと思うが、住民の反対運動のためそれも叶わない。死は忌み嫌われる。

地方からの流入者を飲み込み巨大化した東京は今、超高齢化の社会である。近々、四人に一人が高齢者となり、二〇四〇年には「多死時代」のピークを迎える。当然そこには介護や福祉制度の破綻が伴う。ただし高齢化が問題なのではない。既存の社会基盤が高齢化社会に追い付いていないのである。火葬場への道中、都心部を行き交う人々の波に圧倒される。しかし、都心を出ると高齢者の姿が目立つ。この人たちもかつてはパワフルに都心を闊歩していたのだろう。なぜかと「人材」という言葉が思い浮かんだ。以前ある人が「私は人材という言葉が嫌いだ。人を使い捨ての材料のように思われる」と言っていた。いのちを「生きて役に立つ材」として捉え、死を忌み嫌ってきた私たちに「死もまたいのちの姿」であると突きつけられているように思える。

(H・N)

真宗大谷派(東本願寺)

〒730-0044 広島市中区宝町4-16

広島別院明信院 Tel 082-241-5342(電話・FAX共通)

東本願寺 広島別院

検索

